



Blue
Planet
Prize

1995年7月3日

財団法人 旭硝子財団

第4回「ブループラネット賞」の受賞者決定！

『学術賞』に地球温暖化理論（炭素循環）の権威 **バート・ボリン博士**
(ストックホルム大学名誉教授)

『推進賞』に地球サミットの事務局長を務めた **モーリス・ストロング氏**
(オンタリオ・ハイドロ会長)

財団法人旭硝子財団(理事長・古本次郎)の地球環境国際賞「ブループラネット賞」の受賞者発表は、今年で4回目を迎えます。この賞は、地球環境保全のさまざまな分野で貢献があり、成果を挙げた人または組織に毎年贈るもので、当財団理事会・評議員会は本年度の受賞者を以下のように決定しました。

1 受賞者

画期的な研究業績に対して贈られるブループラネット賞『学術賞』は、海洋、大気、生物圏にまたがる炭素循環の先駆的研究で今日の地球温暖化に対処する政策の科学的基礎を築いたスウェーデンのバート・ボリン博士(ストックホルム大学名誉教授)に決定しました。ボリン博士は、これまでに多くの国際的な科学研究機関の長を歴任し、IPCC(気候変動に関する政府間パネル)議長を務めるなど、温暖化防止の全世界的な政策の策定にも積極的に関わってきました。

地球環境問題の解決への推進的な優れた業績に対して贈られるブループラネット賞『推進賞』は、1992年地球サミットの事務局長を務め、長年にわたって地球環境問題への警鐘を鳴らし解決策を提案、推進してきたカナダのモーリス・F・ストロング氏(オンタリオ・ハイドロ会長)に決定しました。

以上の2人には、賞状とトロフィー、および副賞として各5,000万円が贈られます。

表彰式は11月2日に帝国ホテル(東京都千代田区)で、翌3日に受賞者記念講演会が国際連合大学(東京都渋谷区)で開催されます。

2 受賞理由

『学術賞』のバート・ボリン博士は、長年にわたる世界の気象データの分析結果に基づいた「炭素循環」モデルを開発し、地球環境変化を理解する上で画期的なブレークスルーを実現しました。海洋、大気、生物圏にまたがる関係を見事に説明する複雑な炭素循環モデルは、「全球炭素循環」、「温室効果・気候変動・生態系」など国際学術連合会議のレポートとして報告され、地球温暖化を深く理解する上で大きな役割を果たしました。ボリン博士は、数多くの国際的学術委員会でも長を務め、地球温暖化や温室効果ガスに対処する政策の決定に科学的根拠を提供しています。

ボリン博士はまた、1988年に地球温暖化問題に対処するため世界気象機関と国連環境計画によって設立された「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)の議長を当初より務め、地球サミットへ向けた討議の科学的な裏付けを提供しました。

(財)旭硝子財団

『推進賞』のモーリス・F・ストロング氏は、1970年以前には産業界やカナダ政府に籍を置き、1972年に国連が環境問題で初めて開いた国際会議「国連人間環境会議」で事務局長を務め、72年から92年の20年間は国連環境計画(UNEP)の初代事務局長などいくつかの国連機関の任に着きました。1992年、再びリオの地球サミットでも事務局長として地球環境問題解決への道を拓きました。

ストロング氏の地球環境問題解決に向けた推進的な貢献に対し、カナダ、米国、欧州の大学37校から名誉博士号を授与されたほか、トロントのヨーク大学客員教授を務めるなど、学术界からも高い評価を受けています。

カナダ政府の石油公社ペトロカナダの会長や世界各地の電力や資源関連企業の長としても活躍してきたストロング氏は、現在、北米最大の公益企業、オンタリオ・ハイドロの会長職にある傍ら、アース・カウンシル議長、世界資源研究所理事長を始めとする非政府機関の長を務めています。また、今年に入ってから世界銀行総裁のシニア・アドバイザーに任命されました。氏の問題解決のための貢献のおかげで、地球環境問題は、世界の政治的・経済的課題の上位に位置付けられています。“持続可能な開発”の概念を世界中に普及させる点においても、ストロング氏はあらゆる面でこれを推進してきました。

3 受賞者のメッセージ

バート・ボリン博士

「ブループラネット賞を頂いたことは、最高の榮譽と思っています。なぜならこの賞は、科学と人々との連携を支援するものと考えからです。1950年代、60年代に打ち上げられた人工衛星は、私たちの青い星、地球の素晴らしい全体像を初めて見せてくれました。それからすでに30数年。地球環境に関する知識は飛躍的に増えました。しかし問題はきわめて複雑です。したがって科学者たちは、広く一般の人々に、また政治や産業のリーダーたちに分かりやすく、かつ役立つように、それぞれの知識をまとめ上げなければなりません。そうして初めて意思決定者たちは、何から手をつけるか、何を優先して行動するかを決めることができるのです」

モーリス・F・ストロング氏

「今回の受賞は、対象となった業績の実現を支えてくださった世界中の多数の人々に対して授与されたものと思っています。私は従来、日本が汚染物質のレベルを大幅に改善したことに対し、日本の第2の奇跡だと述べてきました。日本の素晴らしい実績は、他の国々にとって手本ともなるべきものであり、1992年の地球サミットで提唱された“持続可能な開発”へ向けて世界的に移行していく上で日本がリーダーシップを発揮する基盤となるものです。日本のそうしたリーダーシップに対して深い尊敬の念と強い期待をもって、受賞に臨みたいと思います」

■この件に関するお問い合わせ先

財団法人 旭硝子財団

担当：中村、長広

東京都千代田区丸の内1-4-2 東銀ビル12F

TEL: 03-3285-0591

FAX: 03-3285-0592

バート・ボリン博士 (スウェーデン) *Dr. Bert Bolin*
 ストックホルム大学名誉教授 1925年5月15日生まれ

バート・ボリン博士は、大気中の二酸化炭素濃度を測定する重要性に早くから気づき、海洋と生物圏を含めた精密な炭素循環モデルを発展させてきた。初期の研究には海面における二酸化炭素の濃度変化の観察に基づいたモデルの開発があり、後にこれを発展させて、大気圏と生物圏における炭素・窒素・リンの循環を研究した。

ボリン博士は仲間の研究者らと一緒に長年をかけ、海と生物圏がどれくらいの量の気体を吸収するかをかなり精確に算定し、これによって炭素循環の大枠は確定した。博士の研究はまた、炭素循環の過程で“ミッシング (行方が分からない)” 二酸化炭素の謎の解明に光明をもたらした。

1980年代に入ると、温室効果気体と地球温暖化の問題は広く世界的に注目を集め始めた。ボリン博士は、国連環境計画 (UNEP) や世界気象機関 (WMO)、国際学術連合会議 (ICSU) の要請によって気候変動評価の研究を率先して行なった。研究の結果をまとめたレポートは、1985年にオーストリアのフィラハで行なわれた科学者と政治家の国際会議で基本資料として採用された。このレポートはまた、国連のレポート「Our Common Future」における気候変動の記述のベースにもなった。

フィラハ会議の後、ICSUは1986年に創設した委員会で地球圏・生物圏国際共同研究計画 (IGBP) の設立を提案し、ボリン博士は同委員会の委員長を務めた。博士はIGBPのメンバーに加わり、90年から92年まで副議長を務めた。

1988年、WMOとUNEPは、地球温暖化防止策の科学的裏付けを得るために「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)を共同で設立し、ボリン博士が議長に選ばれた。IPCCは「気候変動枠組条約交渉」の科学的土台となるいくつかのレポートを作成した。この条約は1992年の地球サミット (リオデジャネイロ) で採択されている。1994年には、今春ベルリンで開催された「気候変動枠組条約第1回締約国会議 (COP1)」に向けてレポートが作成された。現在、博士とIPCCは第2次レポートの作成を進めている。

ボリン博士の炭素循環に関する研究によって、気候変動に関する基礎的な理解が得られた。それだけでなく、博士は、科学的知見を政策立案者が受け入れ易くかつ有用な情報に形を変えることによって、地球温暖化問題に関する国際的な政策形成に多大の貢献をした。

<略 歴>

- 1946 ウプサラ大学 (スウェーデン) 卒業
- 1947-50 ストックホルム大学のC. -G. ロスビー教授の下で学び理学修士号取得
- 1956 ストックホルム大学で博士号取得
- 1956 ストックホルムの国際気象研究所 (IMI) のアシスタント・ディレクターに就任
- 1957-90 IMIディレクター
- 1961-90 ストックホルム大学の気象学教授
- 1965-67 欧州宇宙研究機構 (パリ) の科学ディレクター
- 1967 国際学術科学連合会議 (ICSU) の大気科学委員会 (CAS) 委員長
地球大気研究計画 (GARP) の創設を提唱
- 1967-71 GARP (ICSUとWMOが共同で設立) の合同組織委員会の初代議長
- 1974 地球規模の気候研究に向けた大規模なプランニング活動を世界で初めて組織化し、主宰する。
この活動は、1980年に世界気候研究計画 (WCRP) の設立につながった。
- 1979 ICSUの環境委員会 (SCOPE) 発行の定期刊行物で「全球炭素循環」を編集。
これが有名なレポート No.13である。

- 1983-86 ICSU、UNEP、WMOによる気候変動の科学アセスメントを中心となって実施。
この結果がSCOPEレポート No.29「温室効果、気候変動、エコシステム」として出版された。
- 1983-86 スウェーデン政府の科学諮問会議の委員
- 1985-86 ICSUで地球圏・生物圏国際共同研究計画(IGBP)の創設を提案した委員会の委員長となる。
- 1986-88 スウェーデン首相の科学アドバイザー
- 1988- 気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の議長に任命される。

<主な受賞歴>

- 1981 世界気象機関のIMO賞
- 1988 タイラー賞
- 1988 スウェーデン学士院のセルシウス賞
- 1993 スウェーデン地球物理学会ロスビー賞
- 1993 欧州地球物理学会のM. Melankovic賞

参考資料 2

『推進賞』受賞者プロフィール

モーリス・F・ストロング (カナダ) *Maurice F. Strong*
 オンタリオ・ハイドロ会長 1929年4月29日生まれ

官民いずれの分野において豊富な経験をもつモーリス・F・ストロング氏は、1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された史上最大規模の国連環境開発会議（地球サミット）の事務局長として、地球環境問題の解決指針であるアジェンダ21を取りまとめた。また、その20年前には、ストックホルムで開かれた世界初の環境問題に関する国連人間環境会議でも事務局長を務め、先進国における経済成長から環境保護への方向転換に関し重要な役割を演じた。これらの会議に留まらず、ストロング氏は長年にわたって、「持続可能な開発」の科学技術をベースにした具体的な方向付けを行うことにより、政治家や産業界の意識を地球環境問題の解決に向かわせ、有効な政策の立案・実施を促してきた。

1972年の国連人間環境会議の後、ストロング氏は、国連環境計画(UNEP)の初代事務局長に選出され、そこでは、世界的な環境活動の調整・管理に留まらず、国際機関がまだ着手していない環境問題を取り上げ、その解決に向け科学的な対応を積極的に推進した。その後、民間の資源関連企業の役員も歴任したが、国連では1985年から86年の間、国連事務次長、国連アフリカ緊急計画主任調整官なども兼務してきた。

ストロング氏はこれまでに、地球環境問題に深い関心をもって、その問題解決と「持続可能な開発」の推進に大きな功績を残してきたが、1969年にトロントのヨーク大学の客員教授を務める他、数多くの大学で講演を行うなど、氏の学術的な功績に対し、北米および欧州の37大学から名誉博士号を授与されている。また、カナダおよび海外から、カナダ勲章やタイラー賞など多数の賞も受けている。

現在、ストロング氏は、北米最大の電力会社オンタリオ・ハイドロ会長の任にあるが、世界銀行総裁のシニア・アドバイザー、アース・カウンシル議長、国連アドバイザー、世界資源研究所理事長の他、多くの公共機関の理事も兼務している。英国学士院、カナダ学士院、カナダ建築学会の会員、またカナダ枢密院のメンバーでもある。

<略 歴>

- 1966-70 民間企業を辞してカナダ国際開発援助計画の長へ。同計画のカナダ国際開発庁への昇格に尽力
- 1969 ヨーク大学（トロント、カナダ）客員教授
- 1970-72 国連人間環境会議・事務局長
- 1973-75 国連環境計画事務局長としてケニアのナイロビに勤務
- 1976-84 ペトロ・カナダの社長・会長・理事長など主要企業のトップを歴任
- 1985-86 国連事務次長、国連アフリカ緊急計画主任調整官を兼務
- 1986-90 ストロベスト・ホールディングズ社会長。電力会社や資源関連企業数社の役員
- 1990-92 1992国連環境開発会議（地球サミット）の事務局長
- 1992- 北米最大の電力会社オンタリオ・ハイドロの会長
- 1995- 世界銀行総裁のシニア・アドバイザー

<主な受賞歴>

- 1974 タイラー賞
- 1976 第1回国連国際環境賞
- 1976 カナダ勲章
- 1983 ルネ・デュボワ“かけがえのない地球”賞
- 1987 国連環境計画・グローバル500の会員に選出
- 1989 ピアソン平和賞
- 1993 アースデー国際賞
- 1994 ジャワハルラル・ネルー国際理解賞
- 1994 カナダ環境省の終身功労章

参考資料 3

『ブループラネット賞』とは

地球環境問題の解決に向けて、基礎的研究や推進面での貢献をした人または組織の業績を称え、感謝を表すとともに、多くの人がこの人類共通の課題に立ち向かう意欲と意識を高めることを目的として、1991年に旭硝子財団により創設された世界最大規模の国際地球環境賞です。賞は、基礎的かつ画期的な研究業績に贈られる『学術賞』と、環境保全、自然保護など優れた推進的な業績に贈られる『推進賞』からなり、毎年、原則として各1件に対して、賞状とトロフィー、および副賞の5,000万円が贈呈されます。

毎年8月から10月にかけて、授賞候補を全世界から選出し、選考委員会による数次の審議および海外アドバイザーからの意見をもとに、当財団の理事で構成する顕彰委員会に諮り、理事会・評議員会が受賞者を正式決定します。

<過去の受賞者>

- 第1回(1992年) 学術賞=真鍋淑郎博士(米国・海洋大気庁 上級管理職)
推進賞=国際環境開発研究所(IIED、本部・英国)
- 第2回(1993年) 学術賞=チャールズ・D・キーリング博士(米国・カリフォルニア大学海洋研究所教授)
推進賞=国際自然保護連合(IUCN、本部・スイス)
- 第3回(1994年) 学術賞=オイゲン・サイボルト博士(ドイツ・キール大学名誉教授)
推進賞=レスター・R・ブラウン(米国・ワールドウォッチ研究所所長)